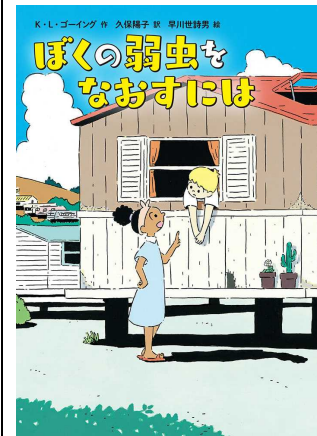




令和4年度

## 茨城県優良図書紹介（小学校高学年向け）



### 『ぼくの弱虫をなおすには』

K・L・ゴーイング 作、久保陽子 訳、早川世詩男（徳間書店）

だれにでも、こわいもの、苦手なものはある。でも、それからいつも逃げてばかりではいけない。少しずつ苦手は変わっていきける。みんなが力を合わせれば世の中も変えることができる。負けてはいけない。



### 『天の台所』 落合由佳 作（講談社）

台所は家の心臓なんだよ。台所を動かしてあげると家全体に元気が巡って住む人も笑顔で過ごせるようになるんだよ。料理するのは、作る人と食べる人の間でぐるぐるめぐるものなんだよ。二人のおばあちゃんが教えてくれたこと。



### 『あしたへの翼』 中島信子 著（汐文社）

6年生になったら楽しいことが待っている。希望に胸を膨らませていたのに、コロナで休校。長距離運転手のお父さんは帰ってこない時もある。理夢はそれでもできる限りおばあちゃんのお世話をする。でも心が折れそうになった4月24日、忘れられない長い一日。



## 『荒野にヒバリをさがして』

アンソニー・マゴーン 作、野口絵美 訳（徳間書店）

ニッキーと1歳違いの兄、ケニーはほんの思い付きでヨークシャー北部の国立公園にヒバリを見に行く。ところが季節外れの雪が降り、道に迷ってとんでもないアクシデントに見舞われてしまう。



武器ではなく  
命の水をおくりたい  
中村哲医師の生き方

## 『武器ではなく命の水をおくりたい』

中村哲医師の生き方 宮田律 著(平凡社)

年々世界は小さくなっていく。世界のどこかで起こることが世界中の人々に大きな影響をおよぼしている。他人事にはできない。小さな島国の日本だって世界中から注目されている。その自覚は早いうちから持たなくてはならない。



## 『夜明けを連れてくる犬』 吉田桃子 著（講談社）

人の前で話すことが苦手な美咲。自分のことを唯一理解してくれている飼い犬レオンの死をきっかけに孤立感を深めていく。そんな時、花屋のお姉さんや花屋の飼い犬のビリーに出会い、成長していく。自分を表現するきっかけとなる勇気を与えてくれるお話。



## 『ぼくらのスクープ』 赤羽じゅんこ 著（講談社）

主人公の井田敦也と堤奏太は学級新聞をつくるため取材をすることになった。様々なハプニングにそうぐうするなかで、そこから人の考えや社会の出来事は一つの面だけではなく、いろいろな面を持っていることに気づく。



## 『夏のカルテット』 眞島めいり 著 (PHP 研究所)

中学1年生の1学期。たまたま図書委員になった4人が夏休みの自由課題として音楽活動をやることになった。友達との関りや様々なかつとうを通して友情を深め一人一人が成長していく。中学校生活は単に楽しいことだけではないが友達と一緒に乗り越え成長していく自分への期待を持たせてくれる物語。



## 『サステナブル・ビーチ』

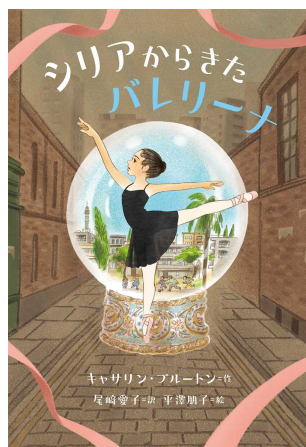
小手毬るい 著、カシワイ 絵 (さ・え・ら書房)

七海は母親と一緒にいったハワイ旅行でオーガストさんやピカケと出会う。プラスチックによる海洋汚染の様子を知っていく中で、七海が成長していく爽やかな物語。



## 『馬と明日へ』 杉本りえ 作、結布 絵 (ポプラ社)

悠斗は地域の乗馬クラブ「しいの木ファーム」で乗馬に励んでいる。乗馬クラブの仲間たちや馬たちとの関わり合いや様々な体験を通して、悩みやかつとうを抱えながらも少しずつ成長する悠斗に励まされる作品。



## 『シリアから来たバレリーナ』

キャサリン・ブルートン 作、尾崎愛子 訳、平澤朋子 絵 (偕成社)

内戦が続くシリアを追われたなんみんの少女アーヤはバレリーナになる夢を追う。りふじんな扱いを受けながらも懸命に生きていくアーヤ。国際平和のために私たちに何ができるのか考えさせられる。